



OMEGA

ユーザー・マニュアル

V1

CABRINHA

www.cabrinhakites.com

WARNING

安全のために必要な以下の内容に同意できない場合、この商品の使用を禁じます。また以下の内容は不定期に変更されることがあります。最新の情報をアップデートするために、絶えずカブリナ・カイトサーフィンのホームページWWW.CABRINHAKITES.COMをご覧ください。

使用者が18歳以下の場合、両親または保護者に以下の警告やインストラクションに関する項目とユーザーマニュアルを読んでもらう必要があります。レッスンを受け、インストラクターかマニュアルを読んだ者の監督下でしかこの製品を使用できません。

この製品にはその使用に伴い、予期せぬ危険が起こる可能性があります。この製品の使用いかんに関わらず、いかなる製品破損や人身事故に関して、使用方法の正否にかかわらず販売店には責任がありません。

カイトサーフィンは激しいスポーツです。パワーカイトやそれにつながるライン、コントロール・エクイップメントは、使用者自身や回りの人々に危険を及ぼす可能性があります。カイトサーフィンをを行う際は真剣に、慎重に取り組み、経験が浅いライダーはプロのインストラクターや経験豊富なカイトボーダーのレクチャーを受けることをお勧めします。カイトの使用 방법이正しくない場合は、ライダー自身や周りの人々に深刻な怪我を負わず、または最悪の場合には死に至らしめる可能性があります。電線や空港、道路の近くではカイトを使用しないでください。また、カイトのフライングラインが人や物に触れないようご注意ください。カイトは常に見通しの良い場所でご使用ください。風や天候に留意し、特に、オフショアやオンショア、強風時には注意が必要です。陸上で完全にカイトの操作ができるようになるまで、水上でカイトを使用しないでください。ライダー自身と周囲の人の安全を守るため、カイトの操作に慣れるよう陸上で十分に練習を行ってください。カイトを使用する際の安全面の責任は、すべてライダー自身にあるということを絶えず頭に入れておいてください。このスポーツを練習する際には、自己の限界を留意し、無理をしないようご注意ください。海上でカイトを使用する際には、安全上、必ず保護防具や浮力体を身につけ、カイトとライダー自身をほどけないほどしっかりと繋がらないようにしてください。カイトを飛行目的で使用しないでください。

カイトサーフィンの練習上の注意点:

カイトサーフィンはいろいろな種目でレベルに応じて楽しめる多様なスポーツです。しかし、他のスポーツと同様に先天的な回避しがたいリスクも伴います。カブリナカイトを使用する前に、下記の安全上のキーポイントを覚えておきましょう。

- ・ カイトサーフィンは**危険を伴う**スポーツで、カイトサーフィンの使用者は人体のあらゆる箇所に深刻な怪我をする怖れがあることを理解してください。
- ・ カイトサーフィンを**する際に怪我をする危険性は非常に高く**、カイトサーフィンを始めようとする使用者はそ

A WARNING

れを理解しなければなりません。

- ・ 未成年は必ず監督者のもとでこの製品を使用してください。
- ・ 初心者はずっとレッスンを受けることを強くおすすめします。
- ・ 使用する前には常にすべてのラインやキャンピー、ブラダー、ネジ、その他全般に、擦れや引き裂けの兆しがないかどうかチェックしてください。
- ・ 擦れや引き裂けの兆しが見られた場合、使用する前にただちにリペアやパーツ交換を行ってください。擦れや引き裂けに関する質問がある場合は、地元販売店にお問い合わせいただくか、ホームページwww.cabrinhakites.comをご覧ください。
- ・ ライダー自身や他の人が怪我をする可能性がある状態やカイトサーフィンのいかなるパーツを破損する可能性がある状態を絶対に避けてください。安全に自力で岸に帰って来られる状態を保ってください。
- ・ 正規販売店で購入した正規製造パーツを使用してください。
- ・ 海の状況やカレント、天気予報など、コンディションに関して勉強し、そういった情報を出艇する前に必ず確認してください。オフショアやオンショアでセーリングする際には注意が必要です。
- ・ 初めてのポイントに行った場合、出艇する前にまずはそのポイントに慣れることを心掛けてください。危険なものがないかどうか、地元のライダーに訊ねましょう。
- ・ 遊泳者や小さな子供など、他のビーチ使用者に注意してください。ボードとカイトやラインを常にコントロールできる状態に保ち、ビーチや海上で風に吹かれて飛ばされないようにしてください。
- ・ 常に十分な浮力体をつけてください。ウェットスーツやUV効果のあるトップスなど、適正なスーツを身に付けて出艇してください。ヘルメットの着用を強くおすすめします。
- ・ 絶えず出艇あるいはビーチに戻ってくるタイミン

グを他の人に知らせてから出艇しましょう。セーリングパートナーをみつけ一緒にビーチにいぎましよう。

- ・ コンディションの変化(風が落ちる、風や波が上がると)に注意し、変化の兆しが見えたときには、常にビーチに戻ってください。
- ・ ビギナーのうちには自己の限界を超えるコンディションでカイトサーフィンしないでください。
- ・ この製品は改造や変更をしないでください。
- ・ この製品は海上でカイトサーフィンすることだけを目的としてデザイン、製造されています。
- ・ この説明注意事項をこれからも参考にできるように保管しておいてください。

雪上で使用する際のガイドライン

- 1) 常に止まったり、人や障害物を避けられるよう、十分にコントロールを保ってください。
- 2) 風下やスロープの下にいる人には優先権がありません。そういった人を優先する義務があります。
- 3) 他の人の妨げとなったり他の人から見えにくい場所で止まらないでください。
- 4) スタートするときや他のライダーと一緒に滑るときには、風上や斜面の上を見て、譲り合ひましょう。
- 5) 道具だけが斜面を下って行かないよう、常に流れ止め用のアイテムを使用しましょう。
- 6) 警告や注意の書いてある看板や掲示などをチェックしてください。
- 7) 滑走可能な場所のみで使用してください。

INDEX 目次

- 2 イントロダクション
- 3 重要な情報
- 4 風と海面、天候について／風早見表
- 5 ライダー自身のレベルの認知
カイトボーディングに適した場所
- 6 重要な情報
- 7 ビーチでのエチケット

カイトの概要&コントロールシステム

- 8 オメガの概要

セッティング

- 10 スプリント・インフレーション・システム
- 11 カイトへの空気挿入
- 12 カイトを安全に保つコツ
カイトから空気を抜く方法
- 14 コントロールラインの接続
- 15 2:1から 1:1 への変換

操作方法:

- 16 カイトボーディングの基本
- 17 使用可能なエリア／カイトポジション、ゾーンとパワー
- 18 ステアリング
- 19 ランチングの準備
- 20 パートナーとのランチング&ランディング
- 22 リランチング
- 23 カイトのチューニング

- 24 リペア 引き裂け／パテンブラダー
- 26 リペア リーディングエッジのブラダー

- 28 専門用語集

OMEGA

USER MANUAL

イントロダクション



新しいカブリナ・カイトのご購入ありがとうございます。そしてカイトボーディングの世界へようこそ。ご存知のとおりカイトボーディングの楽しさは世界中のあらゆる年齢の人々を魅了しています。もっともダイナミックに急成長している新種のスポーツのひとつといえるでしょう。

注意:同時にしっかりとその特徴を理解し、節度をもって行われなければならないスポーツでもありません。そのためにカブリナではこのユーザーズ・マニュアルを配付しています。これは新しいカイトを購入されたライダーの方がカイトに対する知識を広め、安全に使用するために必要なものです。コントロールシステムに関するセッティングやメンテナンスの情報が記載されています。このコントロールシステムで利用できるカイトに関しては、カブリナのホームページwww.cabrinhakites.comをご覧ください。

実際にカイトをご使用になる前に、このユーザーズ・マニュアルのすべてのページを熟読してください。このマニュアルはカイトボーディングのインストラクションを目的につくられたものではなく、補足的な説明が掲載されています。ライダー自身がより楽しくこのスポーツを楽しみ、ライダーだけでなく回りの人の安全のために必要な情報が記載されています。

重要な情報

安全に関する重要な情報

カイトボーディングはいろいろな種目で、レベルに応じて楽しめる多様なスポーツです。しかし他のスポーツと同じようにリスクを伴っています。これからカブリナ・カイトを使用する際に覚えておかなければならない、安全上のキーポイントを紹介していきます。

- カイトや**オーバーライド**、ハーネスループ・クイックシステムといった安全システムに慣れ親しんでください。
- コントロールシステムは添付の説明に基づいてセットし、また使用してください。
- カイトに適応するコントロールシステムを使用してください。
- 常に安全システムを取り付けてカイトを用いてください。
- ライダーはクイックリリースを用い、カイトおよびコントロールバー、ラインと瞬時に離れることができるようにしてください。
- カイトを飛行目的で**使用しないで**ください。
- テンションのかかった状態にあるすべてのラインに決して**触れない**でください。ラインにテンションのかかった状態のカイトに触れないでください。
- 空気の入った状態で使用していないカイトは、必ず砂や何か重い尖っていない物を置いて安全を確保してください。充分と思われる以上に重たい物を置くことをお勧めします。(カイトの取扱い、情報の項参照)ライダーがいなくても、空気の入ったカイトは飛ぶ恐れがあるので、十分に自己や周りのものに注意を払ってください。突然カイトが飛行してしまった場合、周りの人に深刻な怪我を与え、死に至らしめる可能性があります。
- 空気の入ったカイトに対する充分な訓練をしていない人に、ギアを貸さないでください。使用者は必ずこのユーザーズマニュアルを熟読し、すべての項目に同意する必要があります。
- フライイングラインや安全システム、カイト、ボードなどのギアは、きちんとセッティングされていること、きちんと作動することといった項目を、海上に出る前に必ずチェックしてください。

安全のためのギア

以下のプロテクション用ギアの使用を強くおすすめします：

- ヘルメット
- ライフジャケット、インパクトベストなどの浮力体
- ネオプレン製ウエットスーツ
- グローブ
- ブーツなど足を保護するもの
- 目を保護するもの
- 安全用ナイフ
- 日焼け止め

重要な情報

風と海面、天候について / 風早見表

風と海面、天候について

- ・ 風のパワーを過小評価しないでください。
- ・ 不意の天候の変化に気を付けてください。
- ・ オフショアやオンショアのコンディションでカイトボーディングしないでください。
- ・ 強風やガスティな風でカイトボーディングしないでください。
- ・ 特にビギナーのうちは波のあるコンディションでは注意が必要です。
- ・ 潮の満干やカレントを調べましょう。
- ・ 自己のレベルを認知しましょう。自己の限界を超えるコンディションではカイトボーディングをしないでください。
- ・ 外気温や水温について前情報を得て、自然要素から身を守りましょう。
- ・ 嵐のなかでこの製品を使用しないでください。
- ・ 必要に応じて風速計を用いましょう。
- ・ オーバーサイズになるカイトを使用するのはやめましょう。風の早分かり表を使い、最適なサイズのカイトを選びましょう。常識の範囲内で無理をせず、サイズの決定に不安が残るときには小さいサイズを選びましょう。
- ・ カイトに接続したクイックリリース(QR)とオーバーライドを問題なく操作できる状態であることを確認してください。このカイトとコントロールシステムは体重75kgのライダーを基準にデザインされています。

75kgを超えるライダーは軽量なライダーに比べてQRを作動させるために、より多くの力が必要となります。さらに風が強くなると、QRを作動させるために必要な力も強くなります。体重と安全システムとの関係について、カプリナ正規販売店などにアドバイスを求めてください。

風早見表

この表は170 lbs. (75 kg)のライダーを基準に考えられています。実際にはライダー個々の体重や能力レベル、海面の状況、ボードサイズ、ライディングスタイルなど、あらゆる点が異なりますので、この風早見表は参考資料になるものです。ライダーの経験や一般的常識に基づき、他のライダーが使用しているカイトのサイズを参考にしながら適切なカイトサイズを選んでください。一般的に軽量なライダーは小さいカイトを、体重が重いライダーは大きなカイトを使います。体重と安全システムとの関係について、カプリナ正規販売店などにアドバイスを求めてください

MPH	8	12	16	20	24	28	32
KNOTS	6.9	10.4	13.9	17.3	20.8	24.3	27.8
15	■		■		■		
12	■		■		■		
OMEGA	■		■		■		
9	■		■		■		
7	■		■		■		
5	■		■		■		

* 読み方: グレイ=最適。薄いグレイ=使用可能。白=使用をお勧めしない範囲。

重要な情報

ライダーのレベルの認知

ライダーのレベルの認知

- ・ きちんとしたインストラクションなしでカイトボーディングしないでください。
- ・ 一人でのライディングは禁止です。
- ・ ランチングやランディング、ライディングを行う際にはパートナーと行うか、ビーチで絶えず観察してくれる人が必要です。
- ・ この商品を使用する前に良好な健康状態である必要があります。
- ・ 実際のカイトを飛ばす前に、サイズの小さい『トレーニング・カイト』でカイトを飛ばす練習を行います。
- ・ 『トレーニング・カイト』で十分に練習を重ねることによって、より安全に上手にカイト操作を行うことができるようになります。
- ・ この商品を水上または水際で使うためには上手に泳げなければなりません。
- ・ 自己レベルには風と海面のコンディションと大きな関係があるということを理解してください。コンディションに合わせて正しい道具のチョイスをしましょう。
- ・ 泳いで帰れないほど沖ではカイトボーディングしないでください。
- ・ 絶えず体力の温存をはかってください。疲れ切る前にカイトボーディングのセッションを終了してください。
- ・ 実際にカイトボーディングを行う前に安全上の予防策を頭に入れておいてください。ランチング、ランディング、フライングの方法、および水上で使用する際の注意、レスキューの方法など。
- ・ カイトをランチングする前に安全システムを理解しておく必要があります。
- ・ カイトを海の近くで使用する前に、自己レスキューの方法を身につけてください。
- ・ インフレーターカイトを扱ったことがない人にランチングやカイト・キャッチをさせないでください。そういった人や回りの人、ライダーに怪我を負わせてしまう恐れがあります。
- ・ 安全上の責任は全てライダーにあります。

カイトボーディングに適した場所

- ・ 地域の法律や決まり、規則に従い、使用可能な場所での製品を使いましょう。
- ・ 天候やローカルルールについて、地元のライダーの話を聞きましょう。
- ・ カイトをランチングさせる前に必ず周囲をチェックしてください。
- ・ この商品を使用する際にはランチングやランディングに広いスペースを必要とすることを理解してください。
- ・ カイトを使用する際、ライダーの左右、風下に少なくとも100mのスペースが必要です。特に風下には十分にスペースをとってください。
- ・ 特にランチングする場所では風向きに絶えず注意する必要があります。
- ・ 浅いリーフや飛び出しているリーフ、岩のある場所で行わないでください。
- ・ 潮回りに注意してください。干潮時にはビーチの様子が変わり、今までになかった障害物があらわれる可能性があります。
- ・ 電線や電柱、木、人、ペット、建物、車、道路、尖ったものがある所、空港の近くではカイトを使用しないでください。
- ・ 人の多いビーチや波打ち際には使用しないでください。
- ・ 歩道や人の通る場所にラインが渡らないようにしてください。
- ・ ライダーとカイトの間を他の人が通過しないようにしてください。
- ・ ウインドサーフィンやジェットスキーなどの他のマリンスポーツを行っている人、海水浴を行っている人、浮遊物に対して十分に注意してください。
- ・ ランチングの前には、ランチング場所以外にも安全にランディングできるスペースを確認してください。

重要な情報

カイトのケア

エクストリーム性の高い性質を持つカイトボーディングでは、カイトの運搬やセッティングの際にも安全ギアと同様にすべてのギアをしっかりと扱わなければなりません。

セッションの準備

- ・ 安全のための道具（ヘルメットなど）が壊れていないか、通常の動きをするか確認しましょう。
- ・ カイトやコントロールシステムをこまめにチェックし、空気もれや引き裂け、キャノピーやパテンの擦れ、レコンシステムの異常をいち早く発見するようにしましょう。フライイングラインにも擦れやほどけない結び目がないことを確認します。これがフライイングラインの寿命に影響を与えます。
- ・ アスファルトやセメント、砂利など、摩擦の大きい所でセッティングするのは止めてください。道具を痛める恐れが多分にあります。砂や芝生の上でセッティングするのが理想です。摩擦の大きい所でセッティングした際に生じたダメージは保証範囲外となります。
- ・ キャノピーを破いたり、パテンやリーディングエッジの空気もれを起こすような、尖ったもののある所でセッティングしないでください。
- ・ フライイングラインを尖った物のあるところで広げないでください。
- ・ セッティング中は砂や砂袋でカイトを安全に保管してください。カイトを傷つけるような尖ったものや岩、摩擦を起こすようなものからカイトを遠ざけてください。

セッションの途中で

- ・ 長時間、空気を挿入したカイトを人の手から離れた状態でビーチに放置しないでください。風がシフトしたり風向きが変わることによって、カイトの安全性が保たれなくなり飛んでいってしまう恐れがあります。
- ・ 空気を挿入した状態のカイトを（重りを乗せていても）長時間ビーチで風に吹かれた状態にしないでください。これによってトレーリングエッジが絶えず風に吹かれた状態となり、カイトを痛めたりブライダルやコントロールラインを絡める原因となります。もし長時間ビーチにカイトを置かなければならないときは、パテンやトレーリングエッジなど、カイトの広範囲に砂を乗せパタつきをなくした状態にしてください。
- ・ 長時間、太陽光線のもとにカイトを広げておかないでください。セッションの合間にはカイトを安全に保管できる日陰を探してください。使用していないときは片付けましょう。

正しい収納方法

- ・ 真水でカイトを洗い、よく乾かした後、丸めて収納することをお勧めします。
- ・ 濡れているときにカイトを丸めないでください。
- ・ 収納前には異物や砂を取り除き、カイトをきれいな状態にしてください。
- ・ カイトがきれいな状態で乾いたら、購入時に入っていたバッグに入れ、乾いた涼しい所に保管してください。
- ・ カイトが入ったバッグの上に重たいものを置かないでください。
- ・ 空気を挿入したカイトを車の中や車上の収納ボックスに入れたままにしないでください。気温の変化によってカイトが破裂する恐れがあり、これによって内蔵ブラダーは深刻なダメージを受けます。
- ・ 真水を溜めたバケツにコントロールシステム全体（ラインをバーに巻いたまま）を5分つけるという方法で、使用するごとにコントロールシステムを洗ってください。その後、完全に乾かしてください。
- ・ コントロールバーが完全にきれいで乾燥した後、購入時に入っていたバックに入れ、乾燥した涼しい場所に保管ください。

ビーチでのエチケット

ビーチでのエチケット

ビーチや海面を他のユーザーと共有するために考えられる基本的なエチケットです。

安全

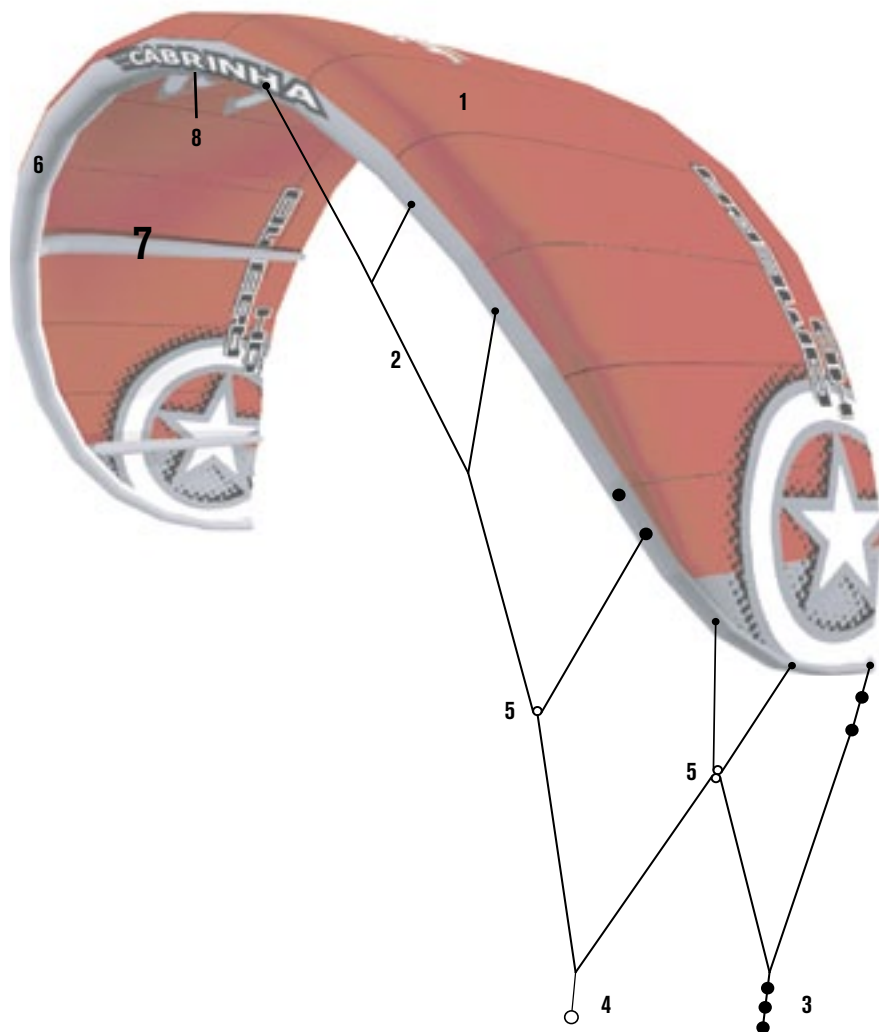
- ・ このマニュアルの安全について記載されている項目を熟読しましょう。
- ・ 使用ビーチに掲げられている安全やルールに関する看板や掲示物をよく読み、それに従いましょう。
- ・ 新しいポイントでランチングする前に地元のカイトボーディング協会やショップに行きましょう。看板や掲示物にない地元のルールや規則がある可能性があります。
- ・ 一般的な安全認識に従いましょう。
- ・ パーやカイトなど、他の人の道具に許可なく触ったり、チューニングをしたりしないでください。
- ・ 常にカイトは砂や砂袋を使って安全を保ってください。ライダーが操作していないカイトは危険です。
- ・ 空気を入れた状態のカイトをライダーから離れた所に置かないでください。風向きが変わりカイトが不用意に飛んでしまう危険を避けるためです。

セッティング

- ・ 使う道具だけをセッティングしましょう。使用していないカイトは空気を抜いて、ただちに片付けましょう。
- ・ 十分なスペースがあるところでセッティングしましょう。
- ・ 他のビーチユーザーのことを十分に配慮し、セッティングしましょう。
- ・ 使用時以外はライン類を巻いておきましょう。
- ・ ランチングやランディング、ライディング時には絶えず他のビーチユーザー、海面にいる人のことを配慮しましょう。
- ・ 他のビーチユーザーに譲る心を持ちましょう。
- ・ 常に必要に応じて他のカイトボーダーの助けをかりられるようにしておきましょう。他のカイトボーダーと互いに助け合いましょう。

カイトの概要

オメガ



パワードライブ2N1コントロールシステムは2:1(プーリー付)コントロールから1:1(プーリーなし)コントロールシステムに変更できます。バーを指定の方法で変更することによって必要なシステムに変更可能なデザインです。オメガ・ユーザース・マニュアルを参照ください。
上図のカイトは2:1ブライダルの構造です。

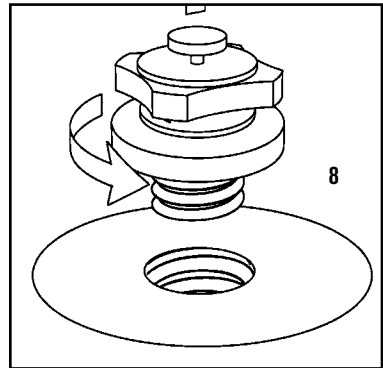
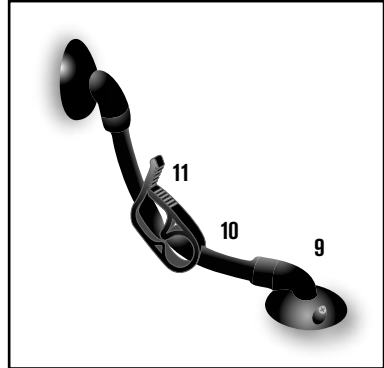
*イラストは均一に縮小していません。

カイトの概要

オメガ

オメガの概要 - パワードライブ 2N1

1. 4ラインカイトのボディ
2. ブライダル
3. ステアリング(後ろ)ライン接続ポイント
4. デパワー(前)ライン接続ポイント
5. プーリー (KS6SEBP/KS6DEBP)
6. マルチ・セグメントのダクロン製リーディングエッジ
7. トゥルーマッチ3Dパテン
8. エアロック・ハイボリューム・バルブ (KS6ALVA)
9. スプリント(一カ所から空気を挿入できるバルブ)
10. スプリント・エア分散チューブ (KS6STCOLA)
11. スプリント・エアクリップ (KS6PINCHC)



セッティング

カイトへの空気挿入

スプリント・インフレーション・システム

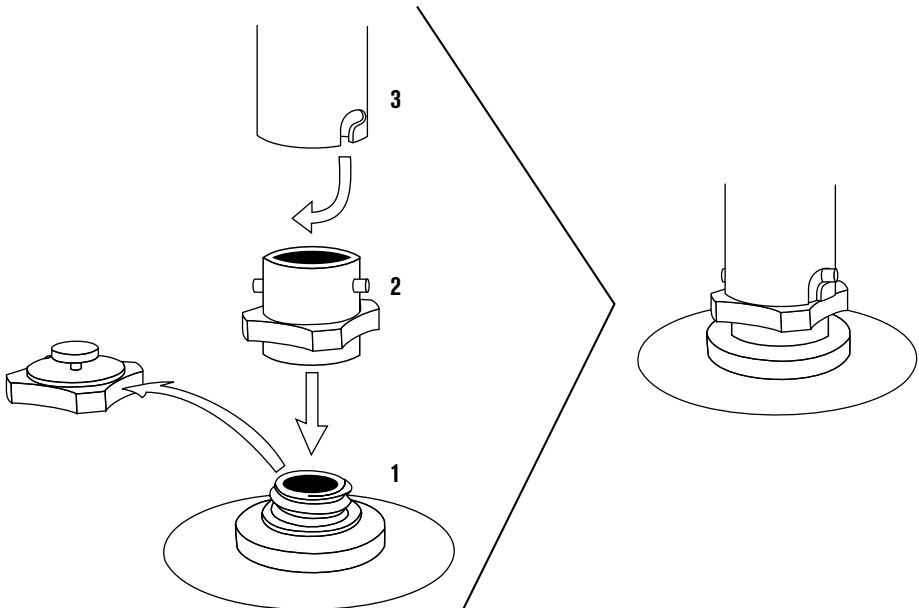
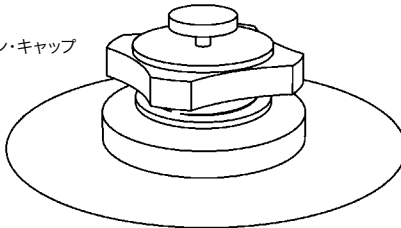
スプリント・インフレーション・システムは、カイトに均等に空気を挿入できる使いやすさが特徴のシステムです。このシステムでは2カ所から空気を挿入できますが、ハイボリュームのカブリナ・ポンプを用いて1カ所の挿入口から空気を入れることができます。ポンプを使って空気を挿入すると、リーディングエッジとすべてのパテンに同時に素早く理想的な量の空気が入ります。付属のポンプ・リーシュとスレッド・バルブ・コネクションによってカイトは安定し、風がある中でも安心して作業が行えます。

カイトに十分な空気が入った状態から、クリップを使ってパテン内の空気を一部取り出すこともできます。これによって、使用中1本のパテンがダメージを受けても、他のパテンの空気が抜けることもありません。セッションが終わったらカイトの空気を完全に抜き、クリップのエンゲージを解除します。

またパテンに空気を挿入したままカイトを丸めて置くこともできるので、次のセッションの時、数分でセッティングすることもできます。

上部は
インフレーション・キャップ

下部はリリースバルブ



セッティング

カイトへの空気挿入

基本操作

カイトのケアに関する項を、実際にカイトに空気を挿入する前に参照してください。

- ・ パテンが上を向く方向でカイトを広げます。
- ・ 背中を風上に向け、カイトのリーディングエッジを身体の近くに保持します。空気をいれていない場合でもウイングチップに砂を乗せるなど、安全に気を配ってください。
- ・ 付属のポンプ・リーシュを用いてカイトとポンプを接続します。これによってポンプを押さえる必要がないので、両手が自由に使えます。(図参照)
- ・ 反時計回りに回してインフレーション・キャップを開きます。
- ・ リリースバルブが時計回りで固く閉められていることを確認します。カイトに空気が入っていない場合、リリースバルブを強く閉めすぎないように注意してください。激しくねじることによってブラダーにダメージを与える恐れがあります。バルブのベース部分はベルクロ製ディスクによって定められた位置にあります。
- ・ カプリナ・アダプター(または通常のノズル)を使用し、ポンプを取り付けます。アダプターを付けるには、ポンプ・ホースの端にあるアダプターを取り除きます。アダプターをエアロックの上部に通します。ホースを再び取り付けカイトに空気を送ります。
- ・ LEからすべてのパテンに空気が流れるように、すべてのエア・クリップを開きます。
- ・ 空気を入れる時は、両手でポンプのハンドルを持ち、ポンプに均等に力が加かるようにします。(図1)これを行うことに寄ってポンプの寿命が延びます。
- ・ リーディングエッジの端まで十分に空気が行き渡っていることを確認します。内蔵ブラダーがきちんと端まで行き渡っていることを手で触って確認してください。
- ・ 通常LEはパテンより先に膨らみます。パテンが十分に膨らんでいない場合は、エア・クリップが開かれていること、エア・チューブにバンクやダメージがないことを確認します。
- ・ リーディングエッジが十分に膨らんだら、ポンプ・ホースを外してインフレーション・キャップをひねって閉めます。軽く回すとインフレーション・キャップはしっかりと閉まります。
- ・ 下部のリリースバルブを閉めます。
- ・ カイトには適量の空気を挿入してください。きちんと膨らんだカイトの端は強く曲げれば曲がる程度の固さになります。ウイングチップが簡単に曲がる場合は、リーディングエッジの空気が不足しています。カイトが十分に膨らんでいる場合、カイトを裏表に置くとウイングチップが上空に向かって伸び、カイトが弓状の形を保ちます。リーディングエッジに空気が不足している場合、パフォーマンスの低下とリランチ時に問題が生じる可能性があります。すべてのカイトは450mBの圧力でテストを行っています。**注意**:ポンプは1押ごとの空気量が決まっていますが、摩擦や亀裂によってその量が低下することがあります。
- ・ ひとりでパテンに空気を挿入することをお勧めします。カイトが膨らんだ後、エア・ディストリビューション・チューブにあるクリップを閉めます。
- ・ カイトにきちんと空気が挿入されたら、カイトを裏返しにして砂などを上に乗せ、安全に置きます。(セットアップ カイトの安全を参照)



最適な空気量のカイト



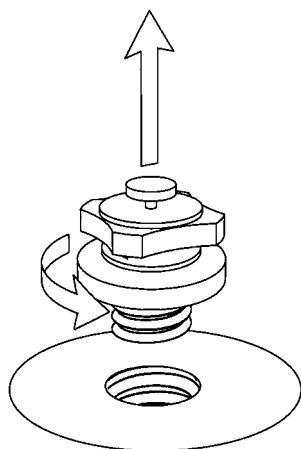
空気の足りないカイト

セッティング

リーディングエッジから空気を抜く方法

カイトを安全に保つコツ

- ・ 空気を挿入したカイトをライダーのいない状態で長い時間、ビーチに置かないでください。風向きがシフトする可能性があり、カイトが飛ぶなど、安全でない状態になります。
- ・ 砂を乗せるなど、必要だと感じる以上に重いものを乗せてください。人が操っていないカイトは危険です。
- ・ 岩や尖ったもの(ボードを含む)をカイトの重りに使わないでください。これはカイトの寿命を縮める行為です。砂浜でカイトしない場合、砂袋の用意をお勧めします。
- ・ 風が吹いているなかで、カイト(重りをしているいなくても)を置き去りにしないでください。これによってカイトのトレーリングエッジが風によってパタつき、コントロールラインのからみやカイト本体のダメージを引き起こします。風の吹くビーチにカイトを置いておく場合、パテンの間全部やトレーリングエッジの近くに多くの砂を乗せ、パタつきを最小限に抑えてください。それが不可能な場合は、ブランケットに入れてください。
- ・ 他のビーチユーザーのことを絶えず考え、カイトやラインを他の人に対して危険がない状態に保ってください。
- ・ 使用していないときはラインをバーに巻いてください。これによってラインがビーチに伸びた状態を避け、他の人がラインにからまるのを防ぎます。



カイトから空気を抜く方法

カイトは完全に空気を抜くか、便宜上部分的に空気を抜くこともできます。リーディングエッジの空気を抜くには、インフレーション・キャップではなくリリースバルブを回して緩めます。リリースバルブはエアロックの下部にあります。空気を抜いた後、バルブについた砂や汚れを取ります。収納前にバルブを閉め、内蔵ブラダーを内側に畳み込んでカイトを折り曲げ収納します。パテンから空気を抜くにはそれぞれのパテンにあるエア・クリップを外します。これによってパテンからリーディングエッジに流れた空気はエアロックから外に出ます。

重要な注意事項 空気を抜いたカイトのバルブを閉める際、ブラダーのねじれを防ぐためにブラダーを定位置に固定してってください。カイトに空気が入っていないときにバルブを閉めすぎないでください。カイトに空気を挿入した後は硬く閉めることができます。



セッティング

PAUSE!



カブリナ・カイトをセッティングする前に、付属のカイト・ユーザーズマニュアルを参照ください。カイト/コントロールシステム適応表とカイト・ユーザーズマニュアルは以下のホームページから参照ください。WWW.CABRINHAKITES.COM

このコントロールシステムに適応するカイトが分からない場合、ホームページWWW.CABRINHAKITES.COMのカイト/コントロールシステム適応表とカイト・ユーザーズマニュアルを参照ください。

コントロールシステムと適応カイトを接続する方法に関しては、カイト・ユーザーズマニュアルを参照ください。

セッティング

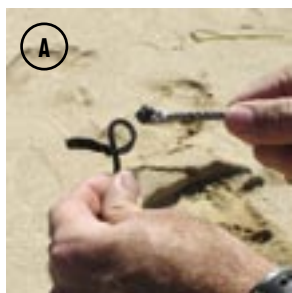
接続とランチング コントロールラインの接続

コントロールラインの接続

ステップを終了した後、空気を挿入したカイトにコントロールシステムを取り付けます。

- ・ ラインを地面に伸ばして置いた後、コントロールバーから一番離れたフライングラインの端にカイトを持っていきます。カイトを持つ際、リーディングエッジを風上に向けて持ちます。
- ・ カイトを砂や砂袋で固定します。尖ったものでカイトを固定しないでください。
- ・ ブライダルの接続部分が4ヶ所あります（両側のウイングチップに2ヶ所ずつ）。リア（後ろ）ブライダルには3つのノットがあり、フロント（前）ブライダルにはラークヘッドのループがそれぞれあります。リアブライダルの中央のノットを使います。他のノットは異なった事柄に使用します。
- ・ イエロー付のデパワー（センター）ラインにあるノットをカイトの左ウイングチップにある黄色いブライダルのラークヘッド・ループに通します。ノットがしっかりと結ばれていることを確認してください。（図A/B/C）
- ・ ラークヘッド・ノットを使い、イエローのステアリング（外側の）ラインとカイトの左ウイングチップにイエローのブライダルを接続します。ノットがしっかりと結ばれていることを確認してください。（図1/2/3）
- ・ 黒付デパワー（中央）ラインにあるノットをカイトのウイングチップにある黒いブライダルのラークヘッド・ループに通します。ノットがしっかりと結ばれていることを確認してください。（図A/B/C）
- ・ ラークヘッドを使い、黒いステアリング（外側の）ラインとカイト右ウイングチップにある黒いブライダルを接続します。ノットがしっかりと結ばれていることを確認してください。（図1/2/3）

注意:“カイトの概要”を参照してください。



セッティング

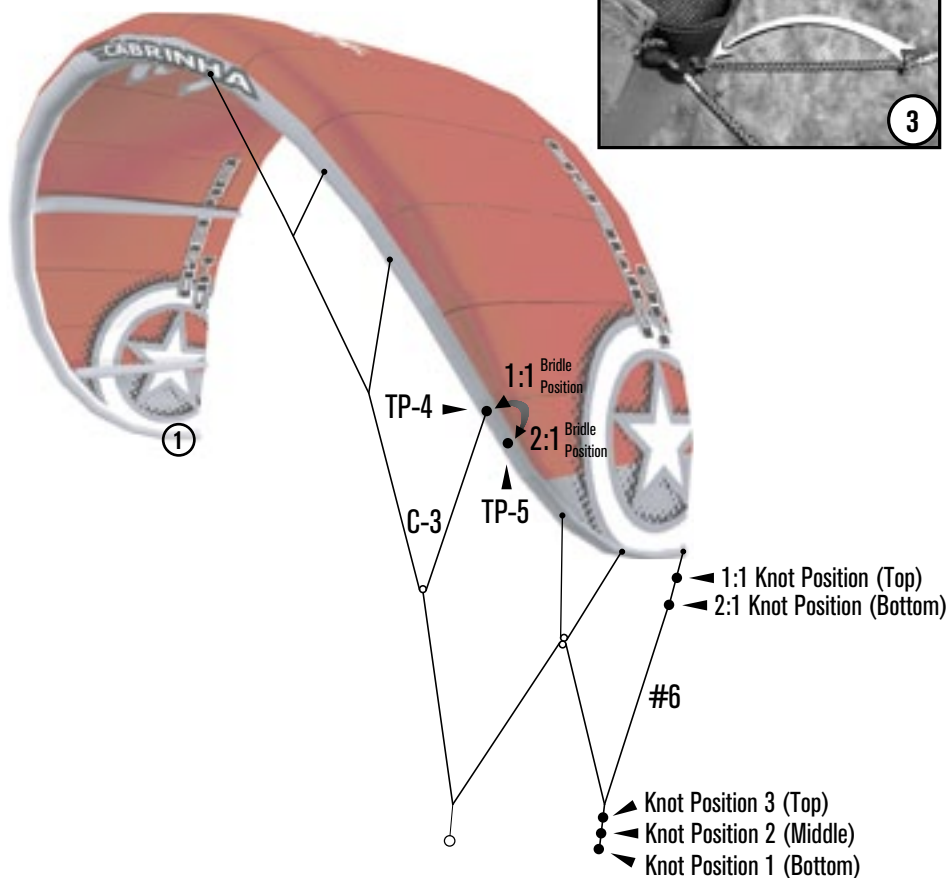
オメガ・カイトは2:1ブライダルから1:1ブライダルの構造へ変更できます。2:1構造は2:1(プーリー)搭載のコントロールシステムで使用します。1:1構造は1:1(プーリーなし)コントロールシステムで使用します。構造を変更するときにはカイトに空気を挿入しておくことをお勧めします。(図1) 注意: 構造とシステムは一緒に変更してください。変更の詳細に関してはパワードライブ2N1ユーザーズマニュアルをご覧ください。

2:1 から 1:1 への変換

- 1) C-3ブライダルをTP5からTP4に移動させます。(図2参照)
- 2) #6ブライダルをカイト方向に結び目1つ分移動させます。(図3参照)

1:1モードでのチューニング

このモードのチューニングはカイトのブライダルに少しテンションを掛けながら行います。リアビッグテイルをリアラインに接続し直す時には、一番下の結び目を使用してください。

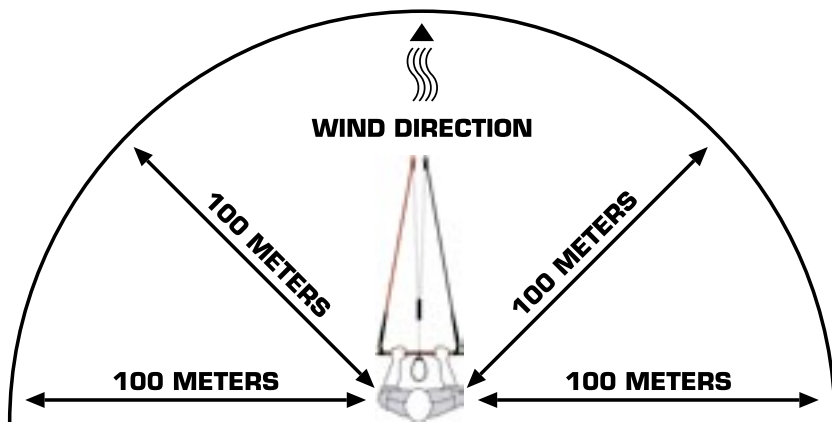


カイトボーディングの基本

使用可能なエリア/カイトのポジション、ゾーンとパワー

使用可能なエリア

両サイドとライダーの風下側に100mの余裕が必要です。ライダーが他の人、物に対して安全を確保するため十分なエリアがとれない場合は、カイトをランチングしないでください。



カイトのポジション、ゾーンとパワー

カイトをランチングする前にパワーゾーンに対する知識を知ることが大切です。カイトボーディングに関する多くの事故は陸上で起こり、またニュートラルポジションと呼ばれるポジションにカイトがあるときに起こっています。多くの人はニュートラルポジションにあるカイトは安定していると考えています。しかし風は絶えず変化し、それによってニュートラルポジションにあるカイトはリフティングと呼ばれる現象が起こります。カイトへの風が弱まると(またはフォイルに十分な風がなくなると)、カイトはライダーから遠ざかる動きをします。ブローが入るとカイトは突然パワーを生み、そのパワーはライダーにとってはカイトを頭上にキープしておくには強すぎる状態となります。そのためライダーは空中に持ち上げられてしまいます。その結果起こるリフティングは危険です。



カイトボーディングの基本

使用可能なエリア/カイトのポジション、ゾーンとパワー

しかしパワーゾーンについて理解することによってリフティングに陥る可能性をできるだけ避け、陸上でカイトをニュートラルポジションで保たないようにすることができます。

ニュートラル・ポジション / これはライダーの頭上にカイトがあるポジションです。ライダーがバーを水平に持ち上げれば、カイトはこのニュートラルポジションに向かいます。しかしカイトをこのポジションに保つことは難しく、危険を伴います。このポジションのカイトは安定し、パワーやライダーを引く力が弱いように感じられるかもしれませんが、ブローが入ると陸上ではライダーがリフティングに陥りやすいポジションでもあります。海上ではボードを手繰り寄せるときなどに休憩のために使われる便利なポジションですが、陸上ではニュートラルポジションでのカイト飛行を極力避けることを強くお勧めします。ランチングの後、いち早く海上に向かうことです。カイトをニュートラルポジションにして長い時間陸上にいないでください。これは**大変危険**な行為です。

リフティング / リフティングはカイトがライダーの頭上になるニュートラル・ポジションとときに起こります。不安定な風が突然垂直な力を発生させ、ライダーを上空に持ち上げる現象です。

ニュートラル・ゾーン / ニュートラル・ポジションを中心に左右に幅を広げたエリアです。カイトの飛行を開始するためには、風上方向や風下方向に向けるのが難しいエリアです。この位置にあるカイトはパワーゾーンにあるカイトに比べてパワーも引く力も強くありません。しかし陸上やガスティブなコンディションの時は特に、このゾーンにカイトがある場合は注意が必要です。

パワー・ゾーン / ライダーの前あるいは横に当たるこの位置のカイトは、ニュートラル、ポジションやゾーンと比べ、パワフルです。このエリアにあるカイトは最もパワフルで、ライダーを引く力が強い状態です。このエリアにあるカイトはパワフルで危険を伴うので、練習中のライダーはできるだけこのエリアでのカイトの使用を避けましょう。カイトがこのゾーンにある場合、注意が必要です。

パワーについて / カイトのパワーを増長させるための一つの方法は、上空でカイトを上から下へ、下から上へと絶えず動かすことです。カイトを上空で動かすことによってリフトを生み、カイトはパワーアップします。特に練習中のライダーはこのことを頭に入れておいてください。カイトを低い位置からニュートラル・ポジションに動かすことによってパワーが生まれ、カイトはスピードアップしますので、そのための準備が必要です。

操作方法

ステアリング

ステアリング

▲WARNING

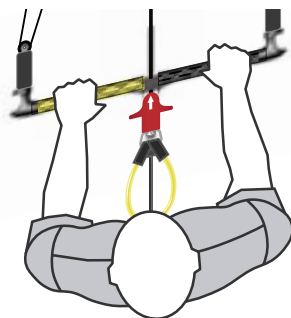
以下は覚えて操作できるようにならなければいけないテクニックのリストの一部です。常にプロのインストラクターからレッスンを受け、体得するようにしてください。

覚えておきたいキーポイント

- ・ 陸上でカイト操作を練習している場合、カイトには非常にパワーがあるということを頭に入れておいてください。安全に十分に留意してください。まずカプリナのトレーニングカイトを使い、カイトの操作方法を体得し、その技術を充分にあげることをお勧めします。その後パワーカイトを使って、海上でボディドラッグを練習しましょう。
- ・ 最初にカイトを飛ばす練習をする場合、カイトから目を離さないようにしましょう。
- ・ ゆっくり操作しましょう。コントロールバーを急激に動かさないようにしてください。
- ・ カイトのパワーを絶えず充分に考慮してください。
- ・ 決して車のハンドルのように、コントロールバーを操作しないでください。カイト操作を困難にし、操作不能に陥る可能性があります。

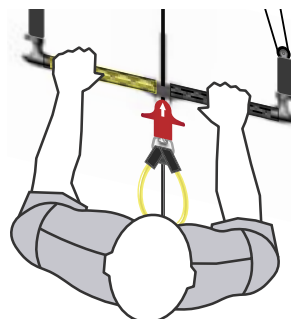
カイトを左に移動させる方法

- ・ 両手でバーを持ち、手を肩幅に広げます。
- ・ カイトから目を離さない状態で、左手を身体に近付けるようにコントロールバーを引きます。
- ・ これは左ひじを曲げ、右ひじを伸ばすような形になります。片方の腕を伸ばすことが重要です。同時に両腕を身体の方に曲げないでください。
- ・ ゆっくりと操作します。素早い動きはカイトのターンのスピードを速め、より強いパワーを生みます。
- ・ カイトがターンし始めたら、違う操作を加えるまでカイトは左回転し続けます。
- ・ カイトをニュートラルポジションに戻す準備をします。



カイトを右に移動させる方法

- ・ 両手でバーを持ち、手を肩幅に広げます。
- ・ カイトから目を離さない状態で、右手を身体に近付けるようにコントロールバーを引きます。
- ・ これは右ひじを曲げ、左ひじを伸ばすような形になります。片方の腕を伸ばすことが重要です。同時に両腕を身体の方に曲げないでください。
- ・ ゆっくりと操作します。素早い動きはカイトのターンのスピードを速め、より強いパワーを生みます。
- ・ カイトがターンし始めたら、違う操作を加えるまでカイトは右回転し続けます。
- ・ カイトを他の位置に移動させる準備をします。



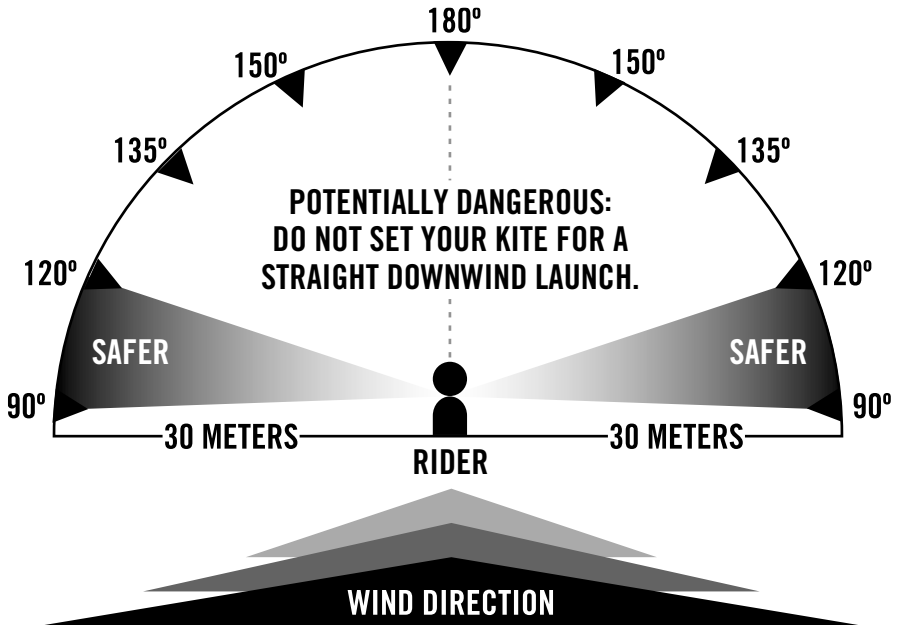
操作方法

ランチングの準備

⚠ WARNING

ランチングの準備

- ・ ライダーの左右と特に風下側に100m以上なにもないスペースを確保します。
- ・ ライダーが立つポイントより風下側にカイトがランチングすることを考慮し、道具を置きます。
- ・ **ライダーの真風下の位置からカイトをランチングしないでください。**このエリアのカイトはパワーがありすぎるためライダーや周りに危険を及ぼす可能性があります。周りの安全に充分に留意してください。
- ・ 基本的にライダーが背中から風を受けている場合、真風下は180度の角度となります。ライダーの左右100度の角度で風下側にカイトがセッティングされるようにしてください。
- ・ ランチング時にカイトが風上に向かっていけばカイトのパワーは少ないので、安全なランチングに最適です。
- ・ ライダーがコントロールバーを持ち、カイトから30m離れる間、パートナーにカイトを持ってもらう方法が理想的です。
- ・ ランチングはゆっくりと安全に行ってください。カイトのランチング時の角度を考え、**決して真風下からランチングしないでください。**



操作方法

パートナーとのランチング

パートナーとのランチング

1. ランチングする前にクイックリリース・システムを使いこなせるようにし、必要なときに動作できるようにしてください。これらのシステムがきちんとセッティングされていることを確認してください。
2. 次にラインやギア、ランチング場所をチェックし、それが万全ならばカイトをランチングする準備は完了です。カイトのランチングに影響するので、カイトにしっかりと空気が入っていることを確認してください。
3. ランチングする前にパートナーとライダーの双方が理解できる、リリースのときの合図を打ち合わせしておきます。
4. オーバーライドボールを解除します。
5. 次に安全ピンをセットします。
6. 風下100度のところにカイトを持ってパートナーに立ってもらいます。
7. パートナーにはリーディングエッジの中央を持ってもらい、リーディングエッジが垂直に風に向かうようにします。
8. パートナーはカイトの裏側に立ち、カイトの横や前に立たないようにします。
9. パートナーが決してブライダルやフライングラインに**触れない**よう、注意してください。
10. コントロールバーを胸の高さに持ち、フライングラインのたるみを取り除くために数歩後ろに下がります。
11. カイトを離すよう、パートナーに合図します。カイトがパートナーの手を離れた瞬間からライダーがカイト操作を行います。
12. **注意:**パートナーはカイトを上空に**投げてはいけません**。ランチング前にパートナーに実際にカイトを投げてみせましょう。上空に投げられたカイトはその性能を発揮することができず、通常通りのランチングをすることができません。その際カイトは強すぎるパワーを発するか全くランチングしない状態になります。この方法は危険なランチングです。
13. カイトを離れたパートナーは、ライダーの風上に移動し、ライダーの妨げとならないようにします。
14. **ゆっくり**とカイトをパワーウィンドウの端に移動するよう操作します。**急激な動き**は避けましょう。十分にカイトをコントロールしながらゆっくりと移動させます。
15. カイトがパワーウィンドウの端に到達したら、背中から風を受ける状態でゆっくりと水際に向かいます。その際カイトを絶えずチェックしていきましょう。いつでもカイトの動きを把握しておく必要があります。
16. ランチングの際に少しでも不都合が生じた場合にデパワーするため、コントロールバーをライダー自身から遠ざける準備をしておきます。
17. **注意:**ランチングの最中に風が強ければ強いほど、全てがスピードアップして起こります。そのためにもゆっくりとした安全なカイト操作が不可欠です。
18. 障害物から十分な距離がある海上に出たら、オーバーライド・ボールを解除することができます。解除後はオーバーライド・ボールの外にバーをスライドさせることによって、カイトをただちにデパワーさせることができます。

操作方法

パートナーとのランディング

パートナーとのランディング

1. ランチングする前にパートナーにカイトの正しいランディングについて説明しておきましょう。
2. ランチング前に必ずランディングに必要なスペースを確保しておきましょう。
3. 上の内容を確認したうえで、水際に向かうときにも、ランディングの場所に人がいないことや障害物がないことを確認します。
4. 特にライダーの風下、カイトの近くや下に何かある場合、ランディングしてはいけません。人やベット、電線、木、その他障害物がない場所にランディングしてください。
5. 波打ち際に近づく際には、カイトをパワーウィンドウの端で海面に近い低い位置に保ちます。
6. ボードから下りて波打ち際までの最後の距離はボテドラッグで進みます。スピードをつけて波打ち際に近付いてはいけません。
7. ゆっくりと風上のパートナーのところにカイトを移動させます。
8. パートナーは風上方向からカイトに近づきます。
9. カイトが地面に付きそうになったところで、パートナーはリーディングエッジの中央部分を掴みます。パートナーはランチング時と同じ箇所を持ってください。
10. パートナーはブライダルやフライイングラインを**持たない**よう、注意してください。
11. パートナーがウイングチップやトレーリングエッジを**持たない**よう、注意してください。ウイングチップやトレーリングエッジを持たれたカイトはフリップやスピンなど、回転動作を行います。この状態のカイトは扱いにくく危険です。
12. パートナーはカイトのリーディングエッジを持った後、カイトを持ったまま波打ち際から離れます。
13. パートナーはカイトを持ち続けるか、あるいはバテンを地面につけリーディングエッジを風上にして置き、砂や砂袋を重りして安全をはかった状態で地面に置きます。
14. カイトを安全に地面の置いた後、ラインを巻きましょう。

操作方法

ランディング

ランチング オメガ

注意:リーディングエッジをはじめ、すべてのパテンにしっかりと空気が入ったカイトは、海上でのランチが可能で、水に入る前にカイトに十分な空気が入っているか確認しましょう。

- ・ カイトが水面に落ちた場合、ライダーの意志とは関係なくカイト自体がランチすることを覚えておきましょう。カイトが水面に落ちた場合はその動きに対する心構えが必要です。
- ・ カイトがフェイスから海面に落ちた場合、リーディングエッジとパテンは水に浸かります。この状態からカイトをランチの状態にするまでの操作をまっず行います。
- ・ リア(後ろ)リーダーラインをライダーの身体方向に引きます。リーダーラインにコンスタントなテンションを加えてください。注意:手にリーダーラインを巻かないように注意してください。また身体にもラインが巻かないようにしてください。カイトのウイングチップを浮かせるためには2m程度のリーダーラインを引く必要があります。
- ・ ヒント:ボードに足を乗せて身体の前にボードを置いてください。これによって身体が前に動く速度が遅くなり、素早くランチできるようになります。
- ・ ウイングチップが浮いてきたら、カイトはじきにひっくり返ります。
- ・ カイトはひっくり返った後、ウインドウの端に移動します。操作を加えてカイトをウインドウの端まで移動させます。カイトをランチする直前まで、同じリーダーラインを持ったままです。
- ・ 風が弱いときなど、カイトがウインドウの端に到達するまで時間がかかります。そうした場合でもカイトの動きを妨げるだけなので、我慢でぎずにバーの両側を引かないでください。左右どちらでも、最初に選んだ側を保ちカイトが動くのを待ちましょう。
- ・ カイト自体のランチの準備ができたなら、リーダーラインを離しカイトを上空に上げます。ゆっくりとカイトを操作して上空に上げ、バーを水平に持ち上げましょう。



操作方法

カイトのチューニング

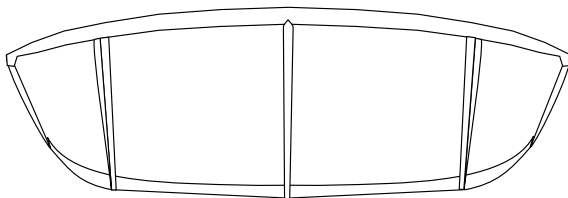
カイトのチューニング

オメガ・カイトにとって正しいチューニングは最高のパフォーマンスを引き出すために必須です。きちんとチューニングされたカイトはスピードアップし、デパワー機能も高まります。以下の項でライダーのスタイルに合わせてカイトをチューニングするためのガイドを紹介します。

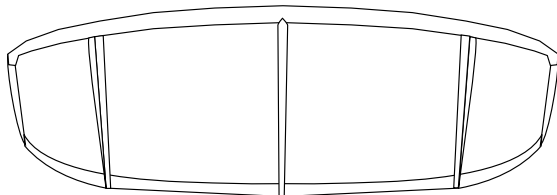
- 全てのモデルにはそれぞれ理想的なスイートスポットが設定されており、これによってステアリングとデパワーラインがきちんと働くようになります。チューニングはセンターライン調節ストラップ(CAS.)の微妙な調節によって行います。
- デパワー機能を最大に引き出すためにはCASがバー上のデパワー範囲になければなりません。腕をいっぱい伸ばし腰を曲げている状態でライディングしている場合、赤いボールを引くことによってバーが身体に近づきます。
- オメガは引き込み過ぎに充分な注意が必要なカイトです。ステアリング(後ろ)ラインにテンションがかかり過ぎると、カイトは失速し、風が弱い時には後ろ向きに走ることさえあります。また引き込み過ぎると、デパワー範囲にあってもしっかりとシャットダウンのパワーを最小限にとどめてしまいます。
- カイトを引き込み過ぎないようにご注意ください。カイトが空を横切っている時に、カイトから最大のパワーが生まれます。より強いパワーや素早い動きを求める場合は、ステアリング(後ろ)ラインにテンションをかけます。これはカイトを引き込むことです。しかしちょうど良い状態を通り越し、バックラインにテンションがかかり過ぎたカイトはゆっくりと上空で動き、パワーウィンドウの端に移動しないようになります。
- カイトを頭上に上げ、ハーネスループにハーネスをかけカイトを引き込みます。カイトを引き込み過ぎている場合、カイトはウィンドウにとどまり続けます。(注意:リフティングに注意してください。カイトを頭上に長い時間とどめておくことは、この現象が起こる可能性を増加させます。ライダーは身体を持ち上げられていると感じたならば、ハーネスで引くことを止めQRSを引く準備をしてください)
- 引き込みを緩めパワーを下げる方法は、センターライン調節ストラップを効果が表れるまで引くことです。センターライン調節ストラップを引くとカイトのパワーは減少します。またデパワー・ループを使用してもカイトのパワーを減少させることができるので、センターライン調節ストラップだけを用いた操作を行わず、組み合わせて効果を高めてください。

ライダー視線のカイトです。ニュートラル・ポジションのカイトはライダーの真上に位置します。

引き込み過ぎたウイングチップ
(後ろラインにテンションが
かかり過ぎた状態)



正しいチューニング



リペア

引き裂け／バテンブラダー

大きな引き裂け

カイトのファブリックに大きな引き裂けができた場合、販売店にカイトのリペアをしてくれるロフトを紹介してもらいましょう。

小さい引き裂け

カイト・ファブリックの小さい引き裂けはカイトリペア・テープで修復可能です。リペアテープは販売店で購入できます。

1. カイトをきれいにし完全に乾かします。
2. カイトを平らで凹凸のないきれいな所に広げます。
3. 引き裂けが完全に隠れる程度の大きさにリペアテープを2枚切ります。
4. リペアテープの1つで引き裂けの片面を注意しながら完全に被います。カイトの表面にテープをこすりつけて密着させましょう。
5. 引き裂けの逆の面にもうひとつのリペアテープを張り付け、同じように密着させます。
6. 両面のテープがしっかりと接着されていることを確認します。

引き裂け／バテンブラダー

覚えておきたいポイント

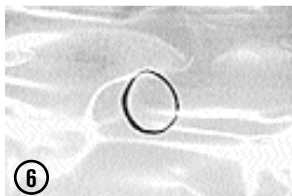
- ・ カイトのブラダーのひとつをリペアする前に、カイトがきれいな状態で完全に乾いていることを確認します。常にポンプとブラダーには砂がついていない状態を保ち、完全に乾かして汚れを拭き取ります。
 - ・ バテンに空気が入っていないことを確認します。
 - ・ ビーチや汚れた場所、埃の多い場所、風が吹いている場所でのリペアは避けてください。風がないきれいで乾いた場所がリペアに最適です。さらに床など、下がスベスベした所が理想的です。
 - ・ ブラダーをリペアする前にフライングラインのセットとブラダー・リペア・キット(カイトに付属)を用意します。
 - ・ 後から使いやすいようにすべてのバルブを分かりやすく並べておいてください。
1. まずバテンを上に向けてカイトを置きます。
 2. 傷付いたバテンのベルク口開閉口をはずします。これによってバテンのスリーブを開き、ブラダーを取り出すことが可能になります。(図1)
 3. 次に該当バテンにかぶせてあるチューピング・ロック・カラー(LEバルブ)を外し、スプリント・インフレーション・チューブとLEスプリント・バルブを離します。(図参照)
 4. チューブからエア・クリップをスライドして外します。(図参照)
 5. バテン・バルブのベース部分にあるネジ(2)を外します。(図)後から使いやすいようにすべてのバルブを分かりやすく並べておいてください。



リペア

引き裂け／パテンブラダー

6. パルプのひとつにフライングラインを結びます。パルプの根元にしっかりと結びましょう。
7. パテンのスリーブのパルプパルプ開閉口にゆっくりとパルプチューブを差し込みます。
8. スリーブの底に手を当て、スリーブからそっとブラダーを引き抜きます。その際フライングラインはスリーブに通したままにしておきます。スリーブにフライングラインを通したままにするのは、リペアが終わった段階でブラダーを元の位置に戻しやすくするためです。(図2)
9. エア・クリップをインフレーション・チューブに戻します。ブラダーに空気を送り込み、パルプを差し込みます。ブラダーを膨らませ過ぎないように注意してください。
10. 穴の開いた箇所を調べるためにブラダーを水に沈めます。バスタブなど、大量の水がある場所の方が楽に動作を行うことができます。
11. 泡の発生によって穴の位置を見分けます。
12. 空気が漏れている箇所を見つけたら、その箇所を乾かし穴の周りに丸を書き込んで印をつけます。油性ペンで書くことをお勧めします。(図3)
13. 柔らかいタオルでブラダー全体の水気をきれいに拭き取ります。
14. ブラダーから空気を抜きます。
15. 接着剤を使うか、ブラダー・リペアキットの中にあるパッチを使うか決めます。
16. 穴がシームにかかっている場合には接着剤が必要になります。
17. 穴がブラダーの平らな面の一部にある場合には、パッチのひとつの裏紙をはがし、パッチをブラダーに張り付けます。穴を完全に被うように注意します。
18. 完全に乾かすため、少なくとも20分はブラダーをそのままにしておきます。
19. 再びブラダーに空気を入れ、穴が完全にふさがったかどうかチェックします。
20. ブラダーの穴を修理した後、ブラダーを元に戻しやすいようにベビーパウダーなどでブラダーをコーティングすると作業が簡単です。(これは必須項目ではありません)
21. ブラダーから空気を抜きます。
22. パルプを引き抜き、ベルク口開閉口からパテン内に戻します。パテンの端のフライングラインを結び、パルプノズルまで開きます。
23. パテンの端にブラダーを平らに置き、スリーブにブラダーを戻します。
24. パルプをゆっくりとスリーブに戻し、ブラダー全体がスリーブに入るようにします。
25. スリーブのパルプ開閉口部分からフライングラインを引き、その一方でブラダー元の場所に戻るよう移動させます。
26. ブラダーが元位置に戻ったら、スリーブのパルプ開閉口にパルプを戻し、縛ってあったフライングラインをほどきます。
27. スリーブの隅々までブラダーが行き渡っているかどうか調べるために、パテンに空気を入れます。
28. 完全にパテンに空気を入れてチェックが終わったら、空気を抜いてカイトを片付けます。



リペア

引き裂け／リーディングエッジ・ブラダー

リーディングエッジ・ブラダーのリペア

1. バテンが上を向くように置きます。
2. リーディングエッジ (LE) ・ブラダーの両端は折り返しになったベルクロ開閉口がついています。LEの中央にはジッパーで開閉できるポケットもついています。ベルクロ開閉口をはずし、中央ポケットのジッパーを開いてください。これによってスリーブが開くようになりブラダーに触ることが可能になります。(図1、2)
3. リーディングエッジについているエアロックバルブをはずします。リテーナーリングをブラダーから慎重にはずします。ベルクロリングにある小さなフルタブを使い、注意しながらエアロックのベース部分をLE内側よりはがしていきます。外した部品は後のために大切にしておきます。(図3、4、5)
4. 次にスプリント・バルブを外します。バテン・バルブにあるチューピング・ロック・カラーを外します。(図)
5. チューブからエア・クリップをスライドして外します。(図)
6. バテン・バルブのベース部分にあるネジ(2)を外します。(図)
7. 後から使いやすいようにすべてのバルブを分かりやすく並べておいてください。
8. 次にフライングラインを2セット用意します。リーディングエッジの片側からラインを通し始め、ラインの片方の端をブラダーのウイングチップに結びます。ラインはしっかりと結びましょう。2つめのラインを使って、同じ動作を反対側のリーディングエッジの端にも行います。(図6)
9. バルブをスリーブのなかにそっと押し込みます。
10. これでリーディングエッジ・バルブに近いジッパー付きポケットに手を入れ、リーディングエッジ・ブラダーに触ることができるようになります。(図7)
11. ブラダーの片側をスリーブから抜き出します。フライングラインはスリーブに通ったままにしておきます。スリーブに通ったフライングラインは、リペア後ブラダーを元の位置に戻す時に使います。
12. スリーブから出したらエア・クリップを装着してください。ブラダーには空気を入れ、空気が抜けないように両方のバルブを閉めます。ブラダーを膨らませ過ぎないように、注意してください。
13. 穴の開いた箇所を調べるためにブラダーを水に沈めます。バスタブなど、大量の水がある場所の方が楽に動作を行うことができます。泡の発生によって穴の位置が分かります。
14. 空気が漏れている箇所を見つけたら、穴の周りに丸を書き込んで印をつけます。油性ペンで書くことをお勧めします。(図8)
15. 柔らかいタオルでブラダー全体の水気をきれいに拭き取ります。
16. ブラダーから空気を抜きます。
17. 接着剤を使うか、ブラダー・リペアキットの中にあるパッチを使うか決めます。
18. 穴がシームにかかっている場合には接着剤が必要になります。
19. 穴がブラダーの平らな面の一部にある場合には、パッチのひとつの裏紙をはがし、パッチをブラダーに張り付けます。穴を完全に被うように注意します。

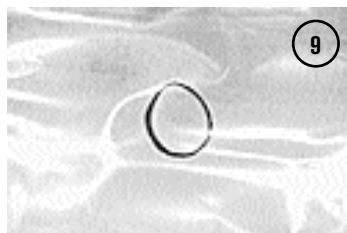


リペア

引き裂け／リーディングエッジ・ブラダー



8



9



10



11



12

- 20.完全に乾かすため、少なくとも20分はブラダーをそのままにしておきます。
- 21.再びブラダーに空気を入れ、穴が完全にふさがったかどうかチェックします。
- 22.ブラダーから空気を抜きます。
- 23.ブラダーの端にフライングラインを結びます。
- 24.ブラダーをポケット近くに平らに置き、蛇腹状に畳んでブラダーをねじることなくスリーブに戻せる状態にします。
- 25.片側からスタートし、ポケットからブラダーを元の位置に戻していきます。
- 26.リーディングエッジの片端に歩いていき、スリーブの端を持ちながらフライングラインをゆっくりと引きます。片側のブラダーがゆっくりとスリーブ中の元の位置に戻ります。
- 27.ブラダーのもう片側にも同じ動作を行います。バルブがホールの近くまで移動し、ブラダーがしっかりとスリーブ内に収まるまで同じ動作を続けます。
- 28.ブラダーをスリーブの端まできちんと押し込みます。(図9)
- 29.ブラダーが元の場所に収まったらスリーブのホールを通してバルブを元の位置に戻します。(図10)
- 29.ブラダーが元の場所に収まったらスリーブのホールを通してバルブを元の位置に戻します。(図11)
- 30.スプリント・バルブを元の位置に戻します。(図12)
- 31.ジッパーの歯が内蔵ブラダーをかまないように注意してください。LEの中央ポケットのジッパーを閉じます。ウイングチップのポケットを元のように折り曲げベルクロストラップをしっかりとつけます。
- 32.エアーロックバルブを取り付けます。
- 33.スリーブの隅々までブラダーが行き渡っているかどうか調べるために、リーディングエッジに空気を入れます。
- 34.スプリント・バルブを付け、それぞれのパテンにエア・ディストリビューション・チューブを接続します。

専門用語集

カイトボーディングや風に関して使われる言葉

トレーニングカイト

カイト・ボーディングに使用するカイトの動きをシュミレーションする陸上で使用する練習用カイト。非常に優れたトレーニング用の道具です。サイズは小さくても十分なパワーがあるので、使用時には注意が必要です。

インフレータブル・カイト

浮力を持たせるように空気をいれたチューブのついたカイト。リランチングが簡単に行えます。

リーディングエッジ (LE)

カイトの前方にある空気を挿入できるチューブ。

バテン

カイトの外側を被うファブリック製の部位。空気を挿入しカイトの骨組みとなる内蔵ブラダーを被います。

ブラダー

リーディングエッジとバテンに内蔵された空気を挿入するチューブ。(自転車のタイヤのように内側に空気を入れるチューブが入るシステムになっています)

エアロック カイトの一方所から空気を挿入したり抜いたりできる、2つのパーツからなるバルブ。

スプリント

1カ所からスピーディに空気を挿入できる技術。

エア・クリップ

LEとバテンの間の空気を遮断しているクリップ。

エア・ディストリビューション・チューブ

LEブラダーとバテン・ブラダーをむすぶチューブ。

オーバーライド

通常のライディング・コンディションのときにコントロールバーの動きを制限するためにデザインされたシステム。カイトを大きくデパワーすることなく、ローテーションの後、バーを回すことができます。デパワー・エクステンションと同じ働きもします。

QRSクイックリリース

ライダーが緊急時にリリースできるコントロールシステムです。QRSハーネスリースがライダーとカイトを接続し、緊急時に接続を解除できるようデザインされています。

バイパスリースシステム

初めてカイトボーディングする人やスクールなど、ハーネスループを使えない人にお勧めの、オプションで取り付けられる安全なリースです。

コントロールバー

カイトを操作するとき用いる、ライダーにとってハンドルのような役割をするもの。

ブライダル

カイトのウイングチップとリーディングエッジから下がっているライン。カイトとコントロールバーをつなぐために用いるフライングラインはこのブライダルに結びます。

トウ・ポイント

ブライダルの接続箇所

リーダーライン

コントロールバーに直接つけるライン。バーとフライングラインを接続するために使います。

フライングライン

カイトに付いてくる4本すべてのラインの総称です。このラインはカイト付属のブライダルラインとコントロールバー付属のリーダーラインを結んでいます。通常20-30mの長さがあります。

ステアリングライン

カイトのトレーニングエッジにあるブライダルから出ている外側に付いた2本のフライングラインのこと。一方はカイトの左のウイングチップから、もう一方は右のウイングチップから伸びます。

デパワーライン

中央に接続されている2本のフライングラインで、一方は左のウイングチップから、他方は右のウイングチップのリーディングエッジから伸びます。このラインはカイトのデパワー機能に働きます。

センターライン調節ストラップ (CAS)

フロントラインとバックラインの長さを変えることによってカイトをデパワーさせるときに使用します。またバーの位置をライダーに近づける時にも使用します。

ハーネス

コントロールバーにあるハーネスラインとライダーをつなぐ便利な道具です。これによってライダーは自分の体重を生かしながら、あまり力を使わずにカイトに

専門用語集

ぶら下がるようにライディングすることができます。もっとも一般的なのはウエストハーネス(胴部に着用するタイプ)とシートハーネス(胴部に着用し足の付け根に巻くタイプ)です。

カイトボーディング

水上でパワーカイトするスポーツの総称。

カイトサーフィン

水上でパワーカイトするスポーツのもうひとつの総称。

ニュートラルポジション

ライダーの頭上ほぼ真上にカイトがあるポジションです。ライダーがバーを高く持ち上げると、カイトは自動的にニュートラルポジションに移動します。しかしこのポジションにカイトを保つことは難しく危険です。このポジションにあるカイトは安定していてパワーがないように感じられますが、地上にいるライダーをリフティングする可能性の高いポジションです。海上にいる時はボードを手繰り寄せている間に使いやすいポジションですが、陸上にいる時には**極力このポジションを使用しないでください**。ランチング後は素早く海上に出て、このポジションを避けることをお勧めします。陸上でのこのポジションは**大変危険**です。

ニュートラルゾーン

ニュートラル・ポジションを中心に左右に幅を広げたエリア。飛行を開始するためにカイトを風上方向に向けるためのエリアです。この位置にあるカイトはパワーゾーンにあるカイトに比べてパワーや引く力が劣ります。しかし陸上やガスティなコンディションの時は特に、このゾーンにカイトがある場合は注意が必要です。

パワーゾーン

ライダーの前あるいは横にあたるこの位置のカイトは、ニュートラル・ポジションやゾーンと比べ、パワフルです。このエリアにあるカイトは最もパワフルで、ライダーを引く力が強い状態です。このエリアにあるカイトはパワフルで危険を伴うので、練習中のライダーは、できるだけこのエリアでカイトを使用することを避けましょう。カイトがこのゾーンにある場合、注意が必要です。

ランチング

パートナーの手からカイトを上空に上げるライダーの動作です。

セルフ・ランチング

パートナーなしでカイトをランチングするテクニック。ライダーの準備が完了するまで砂や重りをウイングチップに置いて行きます。

リランチング

水面に落ちたカイトをライダーが操作し、再び上空に戻すこと。

ボディドラッグ

水上にいるライダーがカイトを上空に上げながらボードを使わないテクニック。カイトの飛行を練習するために、ランチング後波打ち際まで歩き、海上で身体をカイトにひっぱってもらいます。カイトの飛行とリランチング、自己レスキューの方法を学びます。

ウォータースタート

ライダーが水中にいる状態から立ち上がり、ボードに乗ること。

ジャイビング

ライダーが乗っているボードの走っている向きを変えること。スタボータックからポートタックに、またその反対に移ることを言います。

ブレーニング

ボードが水面を滑走する状態。

ランディング

岸にいるパートナーの手元にライダーがカイトを操作して移動させる動作。

オーバーパワー

ライダーの能力や体重、体力、風のコンディションと比べ、カイトのパワーが強すぎる状態。

アンダーパワー

ライダーの能力や体重、体力、風のコンディションと比べ、カイトのパワーが弱すぎる状態。

リーチ

風向きに相対するカイトが動く方向。通常は風下に對して60から160度の方向。

ラル

風(ブロー)が抜けた箇所。ガスティなコンディションでブローが抜けた風の弱い状態のことを言います。またカイトが完全にデパワーした状態にあるとも言います。

専門用語集

ラフ

風が抜けた状態のカイトに起こる現象。

サイドショア

陸に向かって左もしくは右から吹き、岸と平行に吹く風。カイト・ボーディングに理想的な風向き。

オンショア

陸から水面に向かって垂直に吹く風。この風向きの場合は水上や水際でのカイトの使用は禁止です。

サイドオンショア

水面の左もしくは右から陸に向かって吹く風。オンショアとサイドショアの中間の風向き。水面あるいは波打ち際でカイトを飛行させてもいい風向き。

オフショア

陸から水面に吹く風。水面や水際でカイトを飛行させてはいけない風向き。

サイドオフショア

陸の左もしくは右から水面に向かって吹く風。オフショアとサイドショアの中間の風向き。水面や水際でカイトを飛行させてはいけない風向き。

ガスティ

風がコンスタントに吹かず、強弱がある状態。

ダウンウインド

風下。風が吹いていく方向。

アップウインド

風上。風が吹いてくる方向。

リウォード

カイト・ボーダーの風下側。

ウインドウォード

カイト・ボーダーの風上側。

ノット

スピードや風速の単位。海里に基づき計算される。

1ノット=1時間で1海里進む速さ。

1ノット=1.15mph

1ノット=1.85km

MPH

スピードや風速の単位。マイルに基づいて計算される。

1mph=1時間で1マイル進む速さ。

ビューフォート風力級

風が起こす諸現象(波の様子、煙りの流れなど)によっ

て階級をつけたシステム。このシステムによって風の強さを表す機械はあまりない。(0=なぎ~12=台風)

PUMP -

カイトに空気を送るための道具
バー(ユニット) 圧力の単位

・ 1 bar = 14.PSI

・ 1 mbar = 0.015 PSI

PSI - 圧力の単位。ポンド/1インチ四方

・ 1 PSI = 68.9mbar